

平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会へのお誘い —北の大地，北海道札幌市へ—



平成 26 年度放射線安全取扱部会
年次大会実行委員長

稲波 修

平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会（第 55 回放射線管理研修会）は、北海道支部の担当で、10 月 30 日（木）、31 日（金）に札幌市の北海道立道民活動センター“かでのホール”で開催します。お誘いのご案内を申し上げます。

今年度のメインテーマは「放射線安全教育と放射線利用のさらなる向上を目指して!!」というシンプルなものにしました。このようなテーマにした理由は、放射線・アイソトープを管理する者として基本に立ち返る時期にきていると感じたからです。東日本大震災による東京電力（株）福島第一原子力発電所事故から 3 年以上経過しましたが、その影響は依然として残っています。これから世代を超えてこの問題と対峙していかなければならないことを実感されている方も多いのではないのでしょうか。放射線に対する正しい理解をどのように世代を超えて広げていくのか？ 廃炉作業や原子力発電所からの汚染物質の処理は今後どうなるのか？ 研究現場での脱アイソトープが進む中で放射性同位元素の有効利用をどのように広げていけばよいか？今年度の年次大会は、皆様にこのようなことを少しでも考える機会にできればと思っております。

シンポジウム I では、「ここまで来た獣医療での放射線利用」というテーマで企画いたしま

した。こうした獣医系での放射線利用の広がりには意外と知られていないと思いますので、その紹介と問題点を議論したいと思っております。シンポジウム II では、「学校教育における放射線教育」というテーマで当部会の本部企画として行います。震災以降、世代を超えた放射線安全教育をどのように進めるかということは、これからの重要な私たちの課題です。シンポジウム III では、「放射性廃棄物の現状と課題」というテーマで、一般廃棄物から原子力施設からの廃棄物までの現状と将来の課題についてパネルディスカッションを行います。

また、北海道らしい企画として、北海道大学名誉教授の若土正暁氏に特別講演 II 「豊かな海の秘密」をお願いしました。北方の海洋生物のゆりかごになっているオホーツク海の流水形成のメカニズムと流水や海流の生態系における重要性をやさしく話していただく予定です。また、特別講演 III では、北海道で初めての粒子線治療施設設立に携われた北海道大学大学院工学研究院の梅垣菊男氏にその紹介とこれからの粒子線治療施設についての講演をお願いしております。是非ご出席いただき、札幌市、北海道をお楽しみください。

（北海道大学大学院獣医学研究科）